経営事項審査電算処理業務に係る電子計算機用データ入力業務委託仕様書

１　事業概要

広島県（以下「発注者」という。）は建設業者（以下「申請者」という。）から提出のあった経営事項審査等申請書（以下「申請書」という。）受付・審査を行い、受注者はその申請書のデータ化を行う。

発注者はそのデータをシステムに取り込み経営規模等評価結果通知書、総合評定通知書（以下「結果通知」という。）を作成し、申請者に交付する。

２　委託業務内容

(1)業務手順

受注者は令和７年４月から令和８年３月において、発注者から毎月３日頃に経営事項審査データ入力依頼書、申請書及び入力用ＭＯディスクの引渡しを受け、申請書のデータを受注者が用意するコンピュータにより入力を行い、入力済ＭＯディスク、申請書に納品書を添えて発注者に提出する。

納期については、発注量等勘案しその都度経営事項審査データ入力依頼書により設定する。引渡しを受けた申請書等は発注者に提出するまで受注者の責任において厳重に保管・管理すること。

(2)申請書等の受渡方法

ア　引渡時期　発注者が受注者に事前に連絡し指定する。原則、毎月３日頃とするが、発注量等勘案し、引渡時期を変更・追加する場合はその都度協議のうえ、決定する。

イ　納期限　　原則、引渡しを受けた日から起算して、閉庁日を除く５日後の午後５時までとする。

ウ　引渡書類　経営事項審査データ入力依頼書、申請書及び入力用ＭＯディスクとする。入力用ＭＯディスクは発注者で用意する。

エ　納品書類　納品書、申請書及び入力済ＭＯディスクとする。

オ　受渡場所　引渡書類、納品書類の受渡しは発注者の庁舎（広島市中区基町 10－52 県庁北館６階　建設産業課）で行い、搬送は受注者の負担と責任により行うものとする。

(3)入力データの種類及び件数

ア　入力予定件数

帳票種別・規格	タイプ	予定件数
① 経営規模等評価申請書【20001 帳票】（２枚１組）	数字、カナ、漢字	3,000 件
② 工事種類別（元請）完成工事高【20002 帳票】（１枚）	数字	4,800 件
③ その他の審査項目（社会性等）【20004 帳票】（１枚）	数字	3,000 件
④ 技術職員名簿【20005 帳票】（１枚）	数字	3,000 件
⑤ 経営状況分析結果通知書【10006 帳票】（１枚）	数字	3,000 件

※申請書様式は別添参照、いずれも件数は見込み

イ　入力見込タッチ数

帳票種別・規格	タイプ	見込文字数（1件当たり）
①　経営規模等評価申請書【20001帳票】	数字	129字
	カナ	20字
	漢字	30字
②　工事種類別（元請）完成工事高【20002帳票】	数字	238字
③　その他の審査項目（社会性等）【20004帳票】	数字	130字
④　技術職員名簿【20005帳票】	数字	76字
⑤　経営状況分析結果通知書【10006帳票】	数字	297字

(4)入力要領

ア　ソースデータの作成概要

受注者は申請書に記入されている内容をＭＯディスクに入力し、ソースデータを作成する。

発注者はソースデータを端末に取り込んだ後、申請データとして登録可能となる。

イ　システムで管理するデータの単位

システムでは、申請書を次に示すとおり、１つの申請データとして管理する。

・経営規模等評価申請書
・工事種類別（元請）完成工事高
・その他の審査項目(社会性等)
・技術職員名簿００１頁
・技術職員名簿００２頁
　・
　・
　・
・経営状況分析結果通知書

→ １件の申請データ

ウ　ソースデータの作成要領

経営規模等評価申請書、工事種類別（元請）完成工事高、その他の審査項目（社会性等）、技術職員名簿、経営状況分析結果通知書の順で項番ごとにソースデータを作成する。

申請区分ごとに、入力が必要な項目のみデータを作成する。

地方整備局長
北海道開発局長
広島県知事 殿

申請者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

行政庁側記入欄	項番			
申請年月日	01	平成□□年□□月□□日	請求年月日 平成□□年□□月□□日	土木事務所コード整理番号 □□-□□□□□□

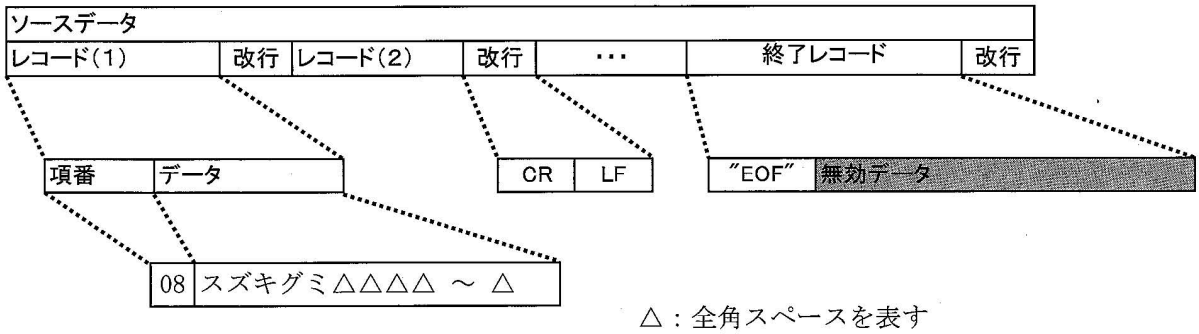
申請時の許可番号	02	大臣知事	コード□□	国土交通大臣 広島県知事	許可（般特－□□）第□□□□□□号	許可年月日	平成□□年□□月□□日
前回の申請時の許可番号	03	大臣知事	コード□□	国土交通大臣 知事	許可（般特－□□）第□□□□□□号	許可年月日	平成□□年□□月□□日
審査基準日	04	平成□□年□□月□□日					

①ファイル名

・ファイル名は半角英数文字で、cixout~.dat とする。
・”～”部分は以下の半角英数文字列が設定できる。
　半角英文字（ a~z 、A~Z ）、半角数字（ 0~9 ）、アンダーバー（ _ ）

②レコード形式

・各項番ごとに１レコードとして決められた様式で入力する。
・レコードの区切りは改行コード（ “CR”＋“LF” ）とする。
　また、各項番の有効データが桁数に満たないときは、その項目の属性に従った空白詰めとする。
・ファイルの終わりには ” EOF ”と３文字のデータを入力する。先頭が ” EOF ” で始まるレコードを終了レコードとする。



△：全角スペースを表す

③申請書データの作成

経営規模等評価申請書	項番０１～２０
工事種類別（元請）完成工事高	項番３１～３４
その他の審査項目（社会性等）	項番４１～６７
技術職員名簿	項番８１～８２
経営状況分析結果通知書	項番 7101～7114

（入力例）

```
01241210241210▲▲▲▲▲▲▲▲CRLF
0234050000201110CRLF
04240831CRLF
051CRLF
0600▲▲CRLF
0700000100001CRLF
08ヒロシマケンセツ△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△CRLF
09広島建設（株）△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△CRLF
10ヒロシマ△タロウ△△△△△△△△△△△△CRLF
11広島△太郎△△△△△△△△△△△△△△△CRLF
1234101CRLF
13基町１０－５２△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△CRLF
147308511082-228-2111▲CRLF
15▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲1▲▲▲▲▲▲▲▲CRLF
16▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲9▲▲▲▲▲▲▲▲CRLF
17▲▲▲-110401CRLF
180000001473CRLF
19000002CRLF
20000005CRLF
3121092308230924082CRLF
32190000002849100000131360000027349000001533 0CRLF
3300000000000000000000000000000000000000000CRLF
3400000284910000013136000002734900001533 0CRLF
411CRLF
421CRLF
431CRLF
442CRLF
451CRLF
462CRLF
471CRLF
482CRLF
49▲▲▲▲▲▲50▲▲▲▲▲5CRLF
50▲▲▲▲▲5▲▲▲▲▲5▲▲▲▲▲3CRLF
511CRLF
521CRLF
531CRLF
543CRLF
55040CRLF
562CRLF
572CRLF
582CRLF
592CRLF
604CRLF
610000CRLF
620000CRLF
630000000000CRLF
64000CRLF
652CRLF
662CRLF
672CRLF
81001CRLF
82191922▲▲▲▲▲▲CRLF
82191922▲▲▲▲▲▲CRLF
71010992CRLF
71021CRLF
710300001733▲▲-76500CRLF
710400011494▲▲-68600CRLF
71050006038700000017CRLF
710600001341▲▲▲-0180CRLF
71070540CRLF
7108000000004954000000027582CRLF
7109000000008724000000018116CRLF
7110000000017695000000000007CRLF
7111▲▲▲▲▲▲-18040000000000485CRLF
7112▲▲▲▲▲▲-11040000000000370CRLF
7113000000015379000000000725CRLF
7114000000013532000000002629CRLF
EOF
```

△：全角スペースを表す　▲：半角スペースを表す　CRLF：改行を表す　EOF：レコードの終了を表す

④コード

UTF－８を使用する。

⑤ソースデータファイルのサイズ

２Ｍバイト以内で作成する。

⑥注意事項

・１件の申請データ内では、項番は昇順でなければならない。
・１件の申請データは、同じソースデータファイル内に連続して入力されていなければならない。
・ＪＩＳ第１水準～第４水準以外の漢字は、全角の‘＊’（アスタリスク）を入力する。
・ＪＩＳ第１水準～第４水準以外の漢字が入力された場合は「ソースデータ取り込み」処理時に‘＊’に変換される。
・不正な項番が存在した場合は、取り込み時にそのレコードは破棄される。
・レコード長が該当項目の決められた桁数を超えた場合、取り込み時にその部分は破棄される。
・レコード長が該当項目の決められた桁数に満たない場合は、取り込み時にそのレコードは破棄される。
・合成用濁点（U＋3099）および合成用半濁点（U－309A）は入力しないこと。
・技術者は１頁につき 30 人まで入力可能。
・入力データは必ず見直しを行うこと。